

耳かきについて語り尽くそう Earpick

Making Book

Preview r01

この本は、耳かきの本『Earpick』シリーズのメイキングをまとめたものです。「耳かき」の本というよりは、主に「本づくり」をテーマとしています。どうして“本をつくろう”と考えたのか、“本をつくってやりたこと”は何かなど、創刊のきっかけにはじまって、制作中に考えたことや実際にどんな作業をしていたのか、できあがって感じた反省点や気づきについてまとめていきます。

※まだ制作途上のPreview版です。続きは当サークルのblogで随時アップしていきます。内容をブラッシュアップしていくために、ご意見等いただければうれしいです。

C³DW

Produced by

C³ Design Works

Creative, Communication, and Consulting Design Works

はじめに

サークル「C³ Designworks(しーすりーでざいんわーくす)」と申します。

(まだまだ本の体裁になっていませんが)この本は、当サークルの耳かきの本『Earpick』シリーズのメイキングをまとめたものです。

『Earpick』シリーズをはじめた理由や、冊子のコンセプトの決定、コンテンツをどの様に決めていったのかなど、制作の過程でどういった事を考えたり、どういった作業をしていたのかなどをまとめていきます。

また、これまで4冊の『Earpick』をつくってみて、つくってみてはじめて気がついたこと、良かったこと、反省すること、いろいろとありました。そういったこともできるだけ残しておこうと思います。

こういった積み重ねで、「つくって良かったと思える本」づくりの方法論が見えてくるんじゃないかと思います。これが少しでも、これから本をつくらうとする人の参考になればいいなと思います。

本メイキング本は、まだまだ制作中の段階です。

当サークルのblogにて随時更新していますので、興味のある方はそちらもご覧ください。

アドレス → <http://circle-c3dw.sblo.jp/>

新しい記事を書き足していくのと同時に、既にアップした記事についても随時修正しています。「ここが分かりにくい」とか、「このあたりをもっと詳しく」などのご意見がありましたら、コメントをお願いします。

本題にはいる前に、当サークルについて紹介させていただきます。

当サークルは、「つくって良かったと思える本」の作り方を考えるサークルです。つぎの様なコンセプトで活動をしています。

- せっかく本をつくるなら、つくってよかったと思える本をつくらう
- そのために必要なこと、できることをよく考えて、その方法論を探してみよう

「つくって良かったと思える本」とは、つくる人の目的(願い)を遂げられる本のことです。

何のことだかよくわからないと思うので、少し細かなことを書いてみます。

まず、本をつくる人には、必ず、本をつくる目的があります。

自分のつくった作品を見せたいとか、(仕事や趣味の)これまでの記録をきちんと残しておきたいとか、特別なものではなくても、ちゃんと「つくりたい」と思うだけの理由があるはずです。

「つくって良かったと思える本」とは、そうした目的を遂げられる本のことです。

でも、本とは「つくる人」がいて「使う(読む)人」もいるメディアです。

ここではもう少し踏み込んで、「使う(読む)側」にも楽しめる／役にたつものまで含めて「つくって良かったと思える本」だと考えています。

当サークルでは本づくりを通して、「つくって良かったと思える本」づくりの方法論を考えています。耳かきの本『Earpick』シリーズは、方法論を実際に試してみるためにはじめた試行錯誤のための冊子です。扱っているテーマ(耳かき)は、完全に趣味のものです。

「つくって良かったと思える本」づくりを考える理由

私はPCをつかって印刷物のデザイン・レイアウトをする仕事をしています。

チラシやポスター、パンフレット、社内報や記念誌など、いろいろなジャンルの印刷物のデザイン・レイアウト、そして印刷用のデータをつくる仕事です。

お客様が作りたいもの(印刷物)はどんなもので、その目的はどんなものかといった具体的な要望を引き出して、それに応えるための印刷物の形や構成を提案、やり取りを繰り返しながら、最終的に印刷物の形に落とし込みます。

少しかっこつけた言い方をすれば「お客様の希望を叶えられる印刷物づくり」のお手伝いをさせていただいています。

いつでもうまくいく訳ではありませんが、良いものに仕上がるように色々な提案や、気になるポイントを伝えながら進めています。

その一方で、方針の決定は当然お客様がされることなので、提案したことが採用されないこともあります。最初から提案する余地のない仕事もたくさんあります。

そんな風にいろいろな仕事に携わっていると、残念ながら「これは、もったいない(残念な)仕事になりそうだな」というものにも出会います。

“もったいない”というのは、できあがった印刷物が「あまり役に立たない」「つくった甲斐がない」結果になるという意味です。印刷物をつくる目的と、決められた(あるいは最終的に決まった)プランがうまくかみ合っていなかったり、かみ合うようにする努力がまったくなかったりするときに、「もったいない仕事」になってしまうように思います。

例えば、読む人がどんな人なのか、どんな具合に(印刷物を)使うのかといった、ユーザに対する考慮をまったくしなかったり、それどころか「対象ユーザを考えればそのプランはまずいんじゃないの?」といったケースです。

本をつくるには、それなりのお金や手間(時間)が必要です。

だからこそ、お金や手間暇をかけた甲斐のあるものにしたい。そのためには、どんなことを考えて、どんな準備をすればいいかなど、必要なことやできることは何かについて考えます。

そうして「つくって良かったと思える本」づくりの方法論をまとめられたら、「こんな風に考えてみませんか?」というサンプルを、本をつくらうとする人たちに見て、参考にしてもらえないかと思っています。

その結果として、「もったいない本」が減っていくことが目標です。

そんなことを考えて、『本をつくるための本 ~本をつくる前に考えておきたいこと①』という本をつくってみました。

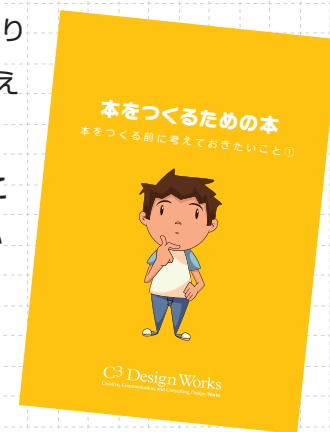
せっかく本をつくるのだから「もったいない本」とならないために、

- 本をつくって伝えたいこと、残したいことは何か
- どんな人に読んで欲しいのか
- どんな風に読んで欲しいのか、楽しんで欲しいのか

などなど、それまでの経験の中から感じてた「本をつくる前に本気で考えてみて欲しいこと」をまとめた本です。シリーズ化するつもりだったのですが、つくった後にいろいろと反省点がみえてきたので、リスタートも含めて現在検討中です。

しかし、おかげで「実践してみないと見えてこないこともある」と実感できたので、検証するためにも、何か自分でも本をつくってみようと思えました。

そういった意味ではギリギリ「もったいなくはなくなった?」のかも知れません(笑)。



「耳かき」というアイテムを見つけたきっかけ

話がガラッと変わりますが、本づくりのネタとして「耳かき」を見つけた話です。

もともと私は「自分でも病氣だ」と思うくらい、耳かきを手放せない人でした。

いつからだったか思い出せないくらい昔からです。母親に耳掃除をしてもらうのではなく、自分ひとりで耳掃除ができるようになった頃からだと思うので、小学校高学年くらいからでしょうか。

大学生くらいになると、筆入れに「耳かき」を入れて常に持ち歩くようになりました。普段から耳の中が気になると他のことが手に付かなくなってしまうので、自宅に置き忘れたときには、あわててコンビニやドラッグストアへ買いに行くほどで、おかげ様で竹製のいわゆる「耳かき」を何本も持っていました。それでも「コレだっ!」というものに出会うことなく、「もっといい物ないかな」といつも思っていました。

つい数年前のこと、びっくりするほど自分の理想にピッタリの「耳かき」を見つけました。振り返って考えると自分でもどうかしていたと思いますが、「理想の耳かき」を見つけた盛り上がりはすさまじく、同じ商品を買って漁っては友人・知人に配ってまわり、その度に“その耳かきが如何に素晴らしいか”を熱く語ってまわるようになりました(笑)。

おもむろに「耳かき」(新品)を取り出して、押しつけては語り出す姿は、冷静に考えて相当に愉快な人に見えたんじゃないかと思いますが、案外に拒絶されることもなかったですし、自分なりの耳かきへのこだわりを話してくれたり、逆に「この商品がオススメだ」と語る人もいました。

しばらくそんなことを続けていて、「耳かきにこだわりのある人って、結構いるなあ」、「案外、耳かきネタって話が盛り上がるなあ」と思ったときに、「これって、他であまり見ない本のネタになりそうじゃないか」と気がつきました。

いろいろと考えてみれば、「耳かき」をネタとした本なんてあまり見ませんし(何冊か出てたりはします)、珍しくて面白いものができそうだと思いました。ずっと前からぼんやりと考えてた、「オリジナリティのあるコンテンツ」を見つけることができました。

結果的に耳かきの本をつくるきっかけになった「耳かき」は、『Earpick Vol.1』で真っ先に紹介しています。興味のある方はそちらもご覧ください。

今回ご紹介の My Favorite Item
GREEN BELL 匠の技 最高級「天然燻竹耳かき」《極細》
極細の燻竹耳かき。本手通り・手磨き仕上げ・絶妙なしなりのこだわりの高級品です。
厳選した高級燻竹を使用し、一本一本、熟練の職人が丁寧に成形、削を削く、曲を曲く小さく、
極上の品質を追求した天然の調湿効果も期待できる、こだわりの一品です。
価格 ¥500 (税) サイズ: L142mm×0.5g (1本) 重量: H10g

今、かいているところの反対側の壁をかきたい—
そんな要望をはじめて体験させてくれた一品!
GREEN BELL 最高級天然燻竹耳かき《極細》

My Favorite Item

5 Earpick Vol.1

Vol.1 Earpick 4

どんな本にしたいのかしっかり考えよう

テーマを「耳かき」に決めたのはいいけれど、はたしてそれがどんな本なのかまったく決まっていません。それどころか「本づくりの検証のため」という、本来の本をつくる目的とはまったく関係ないところからスタートしてしまったので、この本を通して何をめざすのかといったところから考えていく必要がありました。

耳かきトークを繰り広げていたときに、もっと幅広く耳かきへのこだわりや、自慢のアイテム(耳かき)の話を聞けると面白そうだと思っていたので、「この本をきっかけに耳かきネタで盛り上がれるといいな」とぼんやりと頭に浮かんだので、「耳かきをテーマにしたコミュニケーションマガジン」をめざしてみようと、あっさり決めました。

でもこれも“コミュニケーションマガジンって何よ?”と言われれば、何も決まっていなると変わりません。

できあがりの姿がぼんやりとでも想像できるところまではいかないと、原稿集めやデザインなんてやりようがないので、具体的な中身は後回しにして、まずはコミュニケーションマガジンにするためにはどういったものがあるのか考えてみることにしました。

実現できる／できないはこの際関係ありません。こんな本ができるといいなという妄想を目一杯広げることになります。

- 東京Walkerみたいな、あぁいった雑多な内容の雑誌にしたい
- できればビジュアル面にもこだわりたい
- 不定期でもいいから続いていくものに
- 雑誌を名乗るなら24pくらいはページ数が欲しいかな
- 毎号掲載するの企画もいくつか欲しい
- この本をネタに耳かきについて盛り上がってもらえるように
- いろんな人に耳かきへのこだわりを語ってもらおう

- ハンドブック的に持ち歩ける形にしよう
 - できればイラストとかも入れたいなあ
- などなど、思いつくままに書きだしていきました。

こんな風にとりともめもなく書き出しながら、“それならこんな感じ?”みたいに「できあがりのイメージ」をぼんやり考えます。頭の片隅に「耳かき」の本のことが残っていると、なんとなく雑誌を眺めているときに、“あっ、こんな感じもいいな”とか思う瞬間もたくさんありました。

いつまでもズルズルと時間をかけることもできませんが、無理矢理決めてしまつて具体的な作業を進めてから手戻りになるのは避けなかったのも、日をあけてみたりしながら、ある程度具体的な方針がまとまるまで、いろいろと考えてみて、次のように決めました。

- シリーズ化して続けていく
- 複数のコーナーでお構成する冊子に
- わざとらしいくらい雑誌っぽく
- ネガティブ方面の内容はできるだけナシで
- ビジュアルは重要
- 少なくとも16pくらいをめざす
- できればいろんな人に参加してもらおう

これ以外にも「普段の仕事ではやるチャンスがないようなデザインに」とか「デザイン的に遊んでみよう」とかちょっと別方面の野望みたいものもありましたが、とにかく他の雑誌の中に紛れ込んでいても違和感を感じないものをめざすことにしました。

ざっくりとした方向性(方針?)を決めたので、次は「耳かき」で考えられるコンテンツ(中身)について考えます。

	C3DW
試してみたいです。	いろいろな耳かきを

